WASON
HQ
1104
J74

Oct. 6
1888
No. 130

The Woman's Magazine.

女學雜誌

一冊五錢　版權所有

當府内無郵税　各土曜日出版

明治廿一年（第百參拾號）十月六日發

社説
美術
論説
選擧人たるには男子たるを要す（光妙寺三郎）〇兩半球の批難（蘭梅夫人）
批評
日本新婦人〇矢田部博士、女生徒の心得〇榊學士、婦人科者の調査報告〇博士川田剛氏女權論
叢話
男女交際の作法（箕作佳吉）〇家内の會話〇明治小説〇不性物懺悔ものがたり〇孔明の兄弟
小説
哲女の卷〇さすがに双紙〇小説神髓
佳傳
〇魯國の孝女エリサベッス孃
寄書
新報
外報
小供談

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 130. OCTOBER 6TH, 1888.

EDITORIAL:— Fine Art.

LEADING ARTICLES:— One must be a Man to be an Elector, by Mr. Komiyoji. Condemnation of Both Spheres. by Mrs. Ramabai.

CRITICAL NOTES:—"The New Women of Japan." "Dr. Yatabe's Hints to Girl-Students." "Prof. Sakaki's Report about Patients Suffering from Female Diseases." "Woman's Right" by Dr. Kawada.

MISCELLANIES:— "Hint on Social Intercourse." by Dr. Mitsukuri. Conversation in the Home-Circle." "Komei and his Brother."

NOVELS:— "Tetsujo no Maki." "Sasugani." "Bouquet of novels."

BIOGRAPHIES.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

婦人會員の會讀及戸
内の獨學に適せり

蓋し最良の教科書

通信女學 第拾三卷 發兌

去月廿日出版せり

一冊枚數七十頁
定價廿錢全國無郵稅

●珊瑚の珠　（第八十回）

○ナポレヲン曰く若し眠を貪るときは自ら生命を短縮するに異ならず人事多端常に日の足らざるを憂ふ。

○アウイナント曰く光陰は造化の元金なり故に能く光陰を用ふるものは必ず富を致すなり天上の星も地上の砂も勉强して已まざれば盡く聚め得らるゝとなり。

○サルラステアス曰く懶惰に流れ手を束ね居て神明の助けを顧求むるは益なし神明は勤勉者の首に宿る。

○スミス曰く世界の目的人世の目的その終極するところ利にありと云ふか未可ならず若し終極の目的利にして幸福を得ると其希望なりとせば世上何の故に害あり毒あり病あり苦ある乎故に知る世界と人世との目的は聖德を大にするにありたゞ幸福を目的とするにあらざるを然れども聖德の尤も大あるところに幸福の最大なるものあるは勿論なりと云ふべし。

○ショーペンホール曰く婚姻の感化たる其及ぶところ當代自他の禍福に關するのみならず亦子孫の禍福ゟ關せり何んとなれば婚姻はこれ次世の初めなれば也。

○トーマス、ブローン曰く敵に勝つを以て勇ありとする勿れ自己の情慾に勝つて初めて勇あり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第百三十號 明治二十一年十月六日發兌

社説

○美術。

府下の萬代橋、日本橋、の邊りに參つて、往通ふ人々の樣躰を見るに、其の眼とは利を以て鋭どく、其の頬は憂ひを以て衰ろへたるが、恰かも死地を逃げ去る如くにして奔走いたす。女學子、橋畔に佇立してつら〳〵之を眺め、人世は扨ても下賤を窮めたるもの哉と痛歎したり。然るに又省みて我等が一身を思へば、吾人が日夜に齷齪とする所ろも亦た同樣なりとは悟らる、商人が利に奔走するも、吾人が眞理を追窮し文筆に從事するも、必竟是れ同一理に歸す、皆な其務めに從ひ、其の才力に應じて勞働する者である。左らば人間は、斯の如くに多忙、斯の如くに繁劇、斯の如くに拮据苦心して、而して遠焉遂に北邙一片の煙と化すべきもの歟。

吾人時に萬事を擲つて、都外數里の地に散歩いたすことあり、獨り杖を曳き、犬を伴なひ、天晴れて人無きの地に、靜かに徘徊すれば、山は肩を平らにして立ち上り、將に言わんとするの狀あり、野の草は相壓し相戯れて、恰かも吾が來れるに喜ぶの風あり、溪流も幽かなる音を發したり、野鳥も余念なく栽村の間だに囀づつたり、後りへを見れば湖水一面に靜まり、滑らかなること鏡の如し、船を雇ふて犬と共に乘り、之を放つて其の行くまゝに任すれば、鏡の面ては恙なく破れて復た元の如く合す、舷に據つて書を讀み、暫らくして天を望めば、夕陽正に彼の山に懸り、月星代り現はれんとす、水は深く天は高く、山靜かにして樹木黑し。女學子此に於て喟然として長歎し、危座して生命の理を考へたり。

吾人が繁劇多忙の間だに埋もるゝ時は、隨分に心もなく日を暮らすことあり、只だ無心にして働らき、無心にして衣食し、而して富貴利達の褒美を無心に喜んで、知らず七十の一生を雲烟泡沫の如くに送り去ることもあるなり。然るに、一たん平常の業務を振棄て、深く世と相忘れて、靜閑なる境界に趣むき見れば、吾人が靈能は最早濁世の汚れに掩はるゝことなく、有の儘にして此の山、此の水を見るの故か、天地の美妙忽ち吾人の腦を打ちて、豁然、大ひに悟とる所ろを得る、之を人間、自然の美に感ずるとは申すなり。

扨て美術と稱するは、彼の音樂、詩歌、繪畫、彫刻、の類ひを云へることあるが、更に言を換て申さば、美術は即はち自然の美を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

縮寫したるものにてあるべし」。天地の美妙は、模糊として水氣の如く散じたり、之を凝らして一滴の露となしたるもの即ち美術なり、天地の美妙は、暗然として土砂の如く散じたり、之を結晶せしめて一顆の水晶となしたるもの即ち美術なり、故に美術は、自然の美の凝集したるもの、結晶したるもの、縮寫せられたるものとして可なり。但し、宇宙は是れ、一つの大ひなる美妙にして、其の高低大小、皆な美ならぬはなし、若し之を見るの眼こを以て見たらば、定めし何如計りの美あるべきか、敢て吾人の想像し得る所ろに非ず、今日吾人が冷眼視する極醜極惡の者も、其日に於て之を見れば亦必らず其の極美なるところあらんと察せらるゝヿ也。然るに吾人が今ま斯の如くに感じ眺むるヿの出來ざるは、恰かも犬が人の如く美妙を感ぜざるに均しきヿにて、人慾人心の充滿する間だは、實に致し方なき者なり。然し、同じき人間の中にも、固より鋭どく此の感じを現はし得るものと、其の感じの甚はだ鈍きものとあり、例へば鋤を執つて田を耕すの農夫は、其の地の風景を見て何とも感ぜざるに、詩人一と度び此の風景に接すれば、無限の吟腸乍まち動いて禁じがたきヿあるべし、此く感ずると感ぜざるとは、風景の美に增減あるにあらず、只だ之を見るの人によりて異なる者なり。左れば、犬が花を眺めて徒らに吠ゆる如く、農夫が好風景を觀て無心に汗を流すが如く、何如なる詩人何如なる文人と云へども決して悟り感ずるヿを得ざるの美妙あるべし、即はち世の尤も美妙に感じ易きものと云ふとも、たゞ是れ天地に圓滿する大極の美を、只だ其の一部分に於てのみ認ため得るに止まる、而して此の僅かに認ため得たる丈けの美妙を結晶せしめて縮寫したる、是れ即はち美術なるもの也」故に、鳥の聲、谷河の水の音、驟雨霹靂波濤松風の音、もしくは人の感じの踏舞する音を寫して、茲に音樂の調を生ず。名山、大川、奇觀、好風景、月夜、花鳥、もしくは極めて驚ろくべく、極めて歎ずべき事物の美を寫して、茲に繪畫の神を生ず。又かの歌ふものは天地に汎ねし、花に鳴く鶯水に栖む蛙に至るまでも歌を歌へり、然るに詩人歌人は、天地間に無數なる此の歌よみの代表者となり、彼等の無音なる歌を集めて、遂に有韻の詩歌を作り出すものとは知らる。

美術は此の如きものなり、即はち天地自然の粹を集めて、之を尤も便利なる仕方によりて人に現はすものなり、故に偶たま吾人の如く都外閑靜の地に散歩する暇まなきものも、若し

僅かに一曲の音樂を聞き、一幅の繪畫を見、一首の詩歌を吟ずれば、繁劇多忙なる商市の眞中に於ても、身は忽焉として野草綠々たる田圃の間に立ち、靜かに鳥音を聞き、古人の感慨を感ずるの思ひあらん。即ち、大砂漠中に、一叢の綠地あり、魔界に一區の聖人境ある如きものにて、人を慰さめ、人を高尙にすること著じるしきもの也。

人は豕に非ず、如何に珍味に肥え、如何に玉衣に暖まると雖ども、決して滿足せず、一種高尙なる靈の需めありて、此の望みの飽かざる以上は、良し何たる高位富貴の人となるとも敢て安んじがたきあり。故に、人に此の高尙なる靈能のあらん限りは、美術の大切なるは眞とに論を待たず、之れありて初めて能く、此の一種高尙なる需めを滿足することを得る也。吾人もし時に靜閑なる地に徘徊して、靜かに考ふることなくんば、靈の大に餓るを覺ゆ、天下もし美術なくんば、人にして豕に近づくもの甚だ少かるまじ。

然れども、人は只だ考へてのみ生活し得るものにあらず、もし只道を聞くことにのみ專らならば下民皆な夕べに死すべし。故に世に美術の必要なる如く、技術も亦た必要なり、靈の爲めに道德敎を供ふるの必要なる如く、肉の爲めに衣食住を供するとも亦た甚だ必要なり、亦た世は何如に治まらざるに拘はらず、之を治めざる可らず、商賣は何如に卑しきに拘はらず、矢張商賣相通ぜざる可らず。故に世上の事物の大凡そ二類に區別せらるゝに當りて、吾人は斯の如く申す、云く、人世若し技術と美術との二つを必要とせば、男子は是れ技術の爲めに働らくべきもの也、女子は是れ美術の爲に任ずべきもの也、男子を若し技術の勞役者と云はゞ、女子は是れ美術の天使なるべしと。蓋し、宇宙の剛性凝つて男子と爲り、自然の柔性凝つて女子と爲る、彼の露の如く、水晶の如く、花の如く、蜜の如き女性は即ち天然の美妙を結晶して活世界に出現したるものなり、其の美術に任ずるは天の命なり、當に其の爲すべきの務めなり、其尤も適當なるの地なり。

故に、女子の風采、女子の言語文章、女子の此世に於けるの事業も亦た、大率ね美術的なるを可とす。之を一見すれば、純潔の氣其の眼とより發し、之と語れば、優温淸和の情其の口より發し、其の文章を讀めば、辭句淸く意匠高く、讀者を導きて宛ながら天に昇らするが如きは、即ち女子の風采言語文章の美を極めたるもの也。而して、其の手に由つて作られたるホーム(室家)は、平和高尙にして人を安んじ人を高くする

に足り、其の感化によりて温ためらるゝ交際は、温快清潔にして亦た人を安んじ人を高くするに足らば、即ち女子の事業の尤も美術的に達したるものならん」。世に美術なかる可らざるを知らば、則ち世に女性なかる可らざるを知り、美術が世に於けるの功ほし莫大なるを知らば、則ち女性が世に於けるの功績亦た甚大なるを知り、近來美術の保護に注意するとの尤も切要なるを知らば、則ち女性の優待に掛念するとの亦た尤も切要なるを知るべし。

論説

○選擧人たるには男子たるを要す　光妙寺　三郎

左の一節は余が頃日明治法律學校に於て說述する所とす貴社に於て雜誌に掲載せらるれば余の幸も亦甚し。

女子に對して其固有の權理を認定せる倘ほ未だ完全ならずと雖も殆んど之を奴隷視せる昔時に比すれば既に霄壤の別あり是れ十九世紀の一大榮擧と謂はざる可からず。

歐米諸國に在りて既に民事上に於ては女子も亦た男子と同一の權理を有するは讀者の知る所たり彼の結婚の婦を認めて不能力者と爲す如き佛國民法中倘ほ二三の缺典なきに非らざるも民事上の原則に於て女子の權理を認知せるや復た疑ふ可からず。

然るに政事上に於ては歐米諸國何れの國に在りても未だ女子に其權理を認知して選擧人たらしめたるものを見ず啻に之を見ざるのみならず女子には此權理を拒却す可しと爲す論者居多あるが如し此等の論者は何等の正當なる理由の存する有りて女子に選擧の大權を拒却するや余は之を怪訝せざるを得ざるなり。

夫れ人類に於て女子の數は男子の數と殆んど相半するは統計家の常に證明する所にして吾人の相集まりて國と名づくる會社を組成するや女子は實に其半部を占む此會社の半部を占むる所の女子は此會社の公共事務に關して有形無形の利益を有するは決して男子に異なる無きなり否な男子より或は大なる有らん然らば女子は何等の理由の存する爲めに直接間接に公共事務に參與する權理を有せざるや」彼の男尊女卑の說を爲して女權を抑壓せんとする者の如きは現今文明の世代に殆んど迹を絕つが故に余は斯に一々其說の謬妄を辨駁するの勞を取らざる可し然れども世或は男女同一と男女平等とを混視し其同一ならざるが故に同權ならざる可と爲す如き妄想を懷く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

者なきに非らず是れ宜く辨ぜざるべからず。

男子と女子とは既に其形躰上に於て同一ならざるが如く其心性上に於ても同一ならざるもの有るは言を待たず然れども心性を組織する智慧、感情、意望を具するや女子も猶ほ男子の如く且つ其智慧、感情、意望の作用の如きも女子に於けるも猶ほ男子に於けるが如く一定の法度に依る之を要するに男女均しく是れ自由體あり自由體は各自平等なり各自平等なるが故に同權ならざる可からず。

男子と女子とは心性上に於ても同一あらざるもの有り即ち女子の智慧、感情、意望は常に全く男子の智慧、感情、意望と同一なるに非らざるが如き是れなり然れども是れ決して男女同權あらざる可き一證と爲すに足らざるなり試みに之を思へ斯に數個の男子あらんに其智慧、感情、意望、豈に盡く同一ならんや其同一ならざるに拘はらず此各男子に對して同權を認むるときは更に何等の他の理由有りて女子をして男子に同じき權理を有せしめざるや。

男女形體上の差異の如きも決して權理の差異を生ず可きに非らず若し然らずと爲さば彼ミル氏の言へる如く軀幹の大小、毛髮の黒黄、眼睛の碧黒總て權理の差異を生ぜんか是れ固より言ふに足らざるなり。

論者或は女子に責むるに其教育の不備あるを以てす是れ亦た言ふに足らざるなり何となれば則ち教育の優劣は權理の消長を來たす可きに非らざればなり且つ男子と男子との間に於ては其教育の程度果して平等なるや鴻儒碩學の旁に一丁字だも知らざる田夫野人あるに非らずや然れども余は未だ聞かず此數男子の間に權理の差異の存するを。

論者又曰く女子は軍役に服せず即ち血税を以て邦家に報ずるを得ず是れ女子に政權を與へざる所以なり。

嗚呼是れ何の言ぞや男子には男子の本分あり女子には女子の本分あり其同じからざるものを以て之れを同うせんとするは是れ爲し得可からざる事なり今夫れ男子の外征するや内に在りて其家を治め其老幼を扶持する者は女子に非ずして誰ぞや是れ女子の本分なり女子の本分は此に止らず戰時に在りては負傷者を看護するなり此負傷者看護の職務の如きは女子の最も能くする所にして決して男子の及ぶ所に非ず女子看護の功豈に男子攻戰の功の下に在らんや。

負傷の軍人に救護を與ふる目的を以て設立する數多の婦人協會の歐米各國に存するは讀者の知悉する所とす余や頃者佛國

の名士「ジユール、シモン」氏が佛國婦人聯合會の報告會式に臨みて爲せる演說を讀むを得たり今其中一二の言を擧げて之を讀者に示さん。(未完)

○兩半球の批難(其二)　蘭梅夫人演

又外國傳道會社の有する十七の學舍にて就き學ぶ一千の生徒とは、年齡未だ十歲に滿たざる未婚の幼婦なるべし彼等は果して頑信派貴族印度人の血統なりや否は、余等の大に疑ふ所なり、何とあれば、凡そ印度人の固有なる國法に據れば、一たび結婚定約(決して離婚すべからず)を成したる幼女は、其良人死沒したる後ちは、たとひ八九歲の幼女にても、之より常に、其姑舅の傍に奉事し、一年一二度生家へ見舞に來るにも僅かの時間を得るに過ぎず(譯者曰能く日本の婦人の里方へ來るに同じ)、此の如き風習あれば、彼等が學校もしくは會堂の如き公けの場所に來り、或は他宗敎の人と談話する如きは、固より固く許されざる所なり、然して通常ブラマ敎徒及び他の貴族の結婚は、皆年齡八九歲或は其以下にて定約し、定約后は如此く外出なし得ざるものなれば、彼の外國傳道會社の學校に於て敎へらるゝもの、果して斯る寡婦なりとは決して信ずべからず、左れば專ら貴族女子の爲に敎ふる學校は、未だ一つも無しと云ふ事を心に記臆すべきのもとす。印度人中の其娘の結婚前に限り、下級の子女等に接近するを憂ざるものも少しはあらん、されど此子女等の已に宗敎上の誓を成し、結婚の大式を終ひ、且つ之に由て貴族婦人と成り、良家の族人と成るを得るに及んでは、決して他族下級の交際を許し成さゝる所なり、又極めて少しなる、既婚の貴族女子が、傳敎師より敎諭を受くるとあらんとも、此は固より傳道學校にあらずして、特に此が爲に立られたる婦人館と稱ふる所なるべし、然るに此等の場所に來る女子も亦全く頑信派種族の純然たる印度人にあらず、大方は夫も舅も或は父も其宗旨に半信半疑を抱く者、又はブラマ敎徒、又は半ブラマ半キリスト敎に歸依するものにて、幾分か西洋主義を抱くものどもあらん。然れど此種族の間に於ても、女子敎育は單に語學讀方に限り、僅か數學を敎ふるに止まり、偶々此已上の科あるも、算術の四則を講ずるに過ぎず、蓋し此の如き敎育なれば、婦人一身を所置する力なく、幼年寡婦の敎師と成るべき學科なく、全く男子を離れ獨立の事業を取る事は決して望み能はざる所なり、蓋し、ブラマ敎及び他の敎徒の中には、是よりも下等なる敎則あれども、彼等は彼の頑信敎徒が、其

寡婦を虐待する如き慘酷なるに似ざるを以て、余は之を救濟するの方法も亦甚だ急なりと成さゞるなり。

印度婦人が、外國傳道師の訪問及敎育を受る事の許されざるは、頑信印度種族一般の常とす、（譯者云ふ貴族の傳道師を恐るゝ事は印度のみに非ず）余が今かく頑信派、貴族印度婦人の社會の情況を報ずるは、徒らに小說又は巷說に由るものにあらず、實に幾年となく身みづから此實地を經歷し來る所なり。

元來余は頑信なるブラマ宗の家に生長したり、余の父母は幸にして婦人の敎育に熱心ありしと雖へども、然るに尙ほ其最愛の娘をして、歐米傳敎師の手より敎訓を受けしむるとは、深く忌み嫌ひ玉ひたる所なりし。

余は丁年に及ぶ後に、父母を失ひたれば、余は抑制すべきもの、一人も無りければ、余は余が意の如く傳道敎師にも他の下級の種族にも接し、且つ我が祖先以來の宗旨と反對する書類をも閱みするを得たり、此れ無類の事なり、今日尙我が印度國の實際を見る時は、各其家法嚴然として存す、たとひ稍や開けたるものと雖ども尙ほ我父母の執られたる主義を抱かざるものは、決して無かるべし。

印度國內の事情此の如くなるを以て、余は斷然として云ふ、印度內の頑信派貴族婦人は、決して傳道會社の救濟し能はざる所なりと、故に是等の婦人を誘導せんには、其風習と甚だしく懸隔せず、假令同一ならざるも全くは反對せざる所の方法を採り用ふべきものなりと、之を以て純然たる普通の敎則を以て敎ゆるの規則は、今日の印度に尤も必要なるものなり、只此校則中、物品を供給し、又病あらば撫慰すると、生家に於ける如く深切にして、敎育の要點は早く此婦人をして世に處するの備をなさしめ、一旦之を放つも自己に思慮して獨立の生計を營むに足るべき力を得せしむるにあり、印度にある傳敎師等は、只だ宗敎上の幸福を與ふるのみに汲々として、キリスト敎を學ぶものにあらざれば更に普通の敎授と爲さゞるに付き、自から奮い自から工夫をこらして、世上の利益を收むるを知らざる、可憐なる我印度婦人は、永久頑信固有の抑壓悲哀の谷に沈まざるを得ず。

我輩思ふに困厄を誘掖扶助するは、其事の何たるを問はず、又假令宗敎を傳ふ能はざる時に於ても、能く之を爲すは決して我信仰に悖れりと爲すべからず、蓋し救世主キリストの云給ひたる「善きサマリア女」の譬を再讀して、聖意の存する所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を研究せば、何の害か之あらん。
右の如く余は、最も明瞭なる語を以て、我等の計畫を陳述するを務めたりと雖ども、倘衆くのキリスト敵友の反對を受んとは期する所あり、然して、又他の一方印度國內に於て、印度婦人の進歩と自由とに心配して余に反對する敵は、我計畫を以て危險ある進敎者の事業なりと無分別にも誤認し、大勢して之を破壞せしめん消滅せしめんと手配りする更に多きやも測り知るべからず、然れども余は信ず、全智全能の天父は、吾人をして心志強壯ならしめ、此慘酷嚴重なる困厄よりして、遂に安全平穩なる境遇に至らしむる事を」。
譯者附言す、余は尤も蘭梅夫人が印度積年習慣の中に在りて、奮然として歐米に渡航し、兩國の學士紳士の駁撃に逢ふも毫も素志を挫かず、能く女子師範學校を設立するに至らんとするを悅ぶものなり。
我が明治廿一年の春、米國ヒラデルヒヤ府に於て萬國婦人大會議あり、蘭梅夫人は亞細亞婦人總代の資格を以て會場に出席せられたり、夫人の面目と云ふべし、余は其の誠意熱心に國民を愛し、倘ほ其の行爲の活潑偉大なるに敬服し、欣慕措く能はざるなり。(完)

佐々木豐壽子譯

女學子附評。歐米普通の基督信徒は、基督教が多年其國に行はれたるの間に棲息して、凡そ事業は直接に傳道の爲にするものと、全く利己の爲にするものと、單に明白に之を二種に區別するの習慣に慣るゝが故に、平生此の常規を推して新開傳道地の傳道事業を評し、人もし苟くも神を直說法し、基督を直說法するにあらずんば、傳道の事にあらずと思惟するとあり、事情に疎く大勢に通ぜざるものゝ癖とは申し乍ら、眞に殘念の至に堪へず、ラマバイ夫人が歐米に於て間ま冷遇せらるゝものは實に之が爲め也。嗚呼、傳道會社諸君の冷評も畢竟する所ろは其熱信の餘りに出づ、只だ少しく事理に迂なるとを歎ずべきのみ、而して夫人の如く確信確認して專一よく其の志を達せんとせらるゝを見て、吾人は私かに吾が友人の少からざるを思ふ。

批評

○日本新婦人

第一號發行せらる、編輯桑原八司氏、發行兼印刷淸水文之輔氏、社は東京飯田町三丁目十二番地に在り、一號の紙數三十二頁、定價一冊八錢、表紙は黃白黑の三色にして一變したる

佛旗の如し、題して日本新婦人とし、下に"I am the Mother of Civilization"と錄す、蓋し何にかの隱語あるべし」。發行の主旨に云く、

今や一箇の生命だに損せず、一文錢だに糜せずして、僅々たる歳月と辨論とを以て買ひ得べき、眞正の文明即ち新婦人養成に至ては、豈に奮發熱心して之を勉めざる可んや。蓋し、眼中山を見ざるの勇あり、事の容易なるに會して立つの智あり、日本女性の爲めに熱心せらるゝの仁ありと謂ふべし」。扨て、批評欄内に女學雜誌の男女交際論を評し、忝じけなくも初號早々、手ひどく吾人を叱り玉ひぬ、云く

男女交際も利害の相從ふは勿論の事にして……此等の利害隨伴論の如きは通常一般の道理にして三尺の童子も知り居る事ならん然り而して物は如何なる塲合にても之を利用すると能はざるものはなき也能く害を避けて利に就き至當なる當座の使用法を敎ゆるが智者の事なるべし……

成程、承はり候、吾人も何卒此の如くに安心するの勇、斯の如くに敎ゆるの智、此の如くに導くの仁を得たきもの也。

"He will do mere in the Same time, he will do it better, he will persevere longer."

Carlyle.

○近時の女學論

（一）。矢田部博士、女生徒の心得

去月廿五日發兌、東洋學藝雜誌第八十四號は、東京高等女學校々長矢田部良吉君が、夏休后開校の初め女生徒に敎訓せられたる演說の筆記を載す。其の言循々として甚だ深切、之を誦して轉たゝ君が生徒を敎ゆるの至れるに感ず。其末に云く、

○○○本年は文部省に於ても此學校の益々盛大ならんとを望まるゝものと見へ、去る七月の卒業式には大臣が自から臨まれて有益ある演述がありました。是は此學校の設立以來初めてのとであります。且又去る八月は新校舍をも建築にありまして、敎室の增したるのみならず理化學實驗室、博物標本室、書籍室が出來まして大ひに便利を增しました。文部大臣が斯く此學校に心を用ひらるれば、學校の敎員吏員も亦益々盡力して學校の改良に從事しなければなりません。

實よ喜ぶべきと也、願くは文部省の此の學校に深切なると只だ本年のみに限らされ、校長敎員吏員諸君の盡力彌よあつく、幸ひに文部大臣の意を躰して尙ほ余りあれよ。

或る人ベーコンに賢愚の別を問ふ、ベーコン答へて曰く先づ両人を裸躰にして比較せよ

(二)。榊學士、婦人科患者の調査報告

榊順二郎君が、明治十七年一月より同二十年十二月に至る四年間、第一醫院に於て診察治療せられたる婦人科患者の調査報告は、東京醫學會雜誌第十七第十八の兩號に見ゆ。調査細微に渡るが故に、只だ其の大略及び要領を示せば、

第一醫院婦人科入院患者自明治十七年一月至同二十年十二月

明治十七年	百六十一人
同　十八年	百〇二人
同　十九年	九十二人
同　二十年	百二十七人
合計	四百八十二人

右合計人員中退院患者の種類を%と爲す時は左の如し

全治	二百〇四人	12.22%
半治	百四十四人	30.25%
不治	八十九人	18.06%
死亡	十五人	3.15%

之をベルリン府のシヤリテー病院に於ける千八百八十四年の調査に由る一般疾病の經過の比例數に較ぶるに一般婦人科的疾病は他の疾病に比して比較的治癒するもの少なくして不治の者却て多く即ち二倍余の%となる然れども婦人的疾病にて死亡するもの甚だ少くして一般疾病の三分の一に居れり

(四年間に診察したる婦人科病の種類を網羅し之を右シヤリテー病院の調査に比較して云く)右の表に由りて見るに我婦人科に於て特に著明なるは子宮膣部糜爛症及び子宮頸管と內外口との狹窄症にして殆んどシヤリテー病院の二十五六倍なり、之れ甚だ奇なり、次で多きはヒステリー症にして殆んど十八倍の數に昇るなり余按ずるに本邦に於ては婦人の學術及び宗旨上の教育不完全にして從て只だ己慾を主張し些少の刺戟を得る時は忽まち過度の激動を起し次で精神變調するに至りて此のヒステリー症を發するならん、次に又子宮前屈前轉症多く殆んど八九倍に至る之れ全く其度輕く殆んど生理的に近きものをも加入したるに由るならん、又子宮炎及び卵巢炎多數にして大約七倍なり、其外黴毒は婦人科的疾病にあらざれども參考の爲めに記載せり即ち我婦人科へ入院する婦人黴毒に罹りたるもの多くして殆んどシヤリテー病院の三倍半に至る。

又兩國(日本獨逸)婦人科的疾病のプロセントを比較して我が婦人科に於て少き疾病殊に著るしきものは子宮肉腫にして殆んど五分の一なり次で少なきものは子宮及膣脫症、喇叭管炎、ペリメトリーチス及びパラメトリーチス等は二乃至三分の一なりとす。

(斯て患者年齡の平均數、結婚度數の平均數等と病との關係を現はすべき精密の表を揭げ了りて後に云く)右の表に由りて見るに婦人科的疾病に於ては種類の異なるに從つて年齡を異にすると明らかなり、然れども結婚したる年齡の遲速は婦人科的疾病に大なる關係なきが如し、之に反して姙娠の度數は大なる關係を存すると明らかなり。

斯の如き有益なる調査報告を得たるは、女學の爲に切に感謝して止む能はざる所ろ也。

(三)。博士川田剛氏、女權論

去二十三日第一高等中學校に於て開かれたる、東洋學會に於て、文學博士川田剛君が「無形の美術」と云へる說を講ぜられたる中に、云く、

風俗にて言はゞ先づ男女同權なり此は女權を高むべしとの說なれども予は不承知なり予は女權を高めんより寧ろ男權を殺ぐべしと主張するものなり我國今迄の男女の間柄は如何にも不釣合あるべし然れども向ふより女が來れば溝の中でも之を避くべし烟草は吸ふも二階に登る時は腰を押せと云ふに至りては是れ男は女の奴隸のみ焉んぞ同權たるに在らん流行あれば怪しむなきにも至るべけれど能く其邊は考へられたし陰陽剛柔は固より天の數女のお轉婆ならんより

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も温順優美なるは天下誰か眼にも愛らしかるべし。之を無形の美術とせらるゝは知らず（博士の美術解は博士の解なれば）、時事新報記者の言に倣つて男權を殺げとはノンセンスならん（ゴム球を壓ゆるの手ゆるめば球は高まる）。其外に於ては吾人篤く之に贊成す。

叢話

○男女交際の作法（其二）

箕作佳吉

我邦にては近頃までは女大學を標準とし男女の交際は甚だ狭き世の中にてありき現今にても其敎に據りて生長したる者社會の大なる部分を占め居るあり然るに他の變化と共に男女交際に就きての思想も急に一變して稍歐米の社會に擬似する樣になりたり就ては女大學は既に陳腐に屬したれども交際を制すべき新の法則未だ定まらず現今の有樣を見るに急進の若き男女は年長じたる者は今の形勢を知らずと輕蔑し其言に意を止めず且つ歐米社會の慣習を誤解し世界中男女の交際最も自由なりと評ある米國にても許さゞる所を爲さんとするものもあるに至りそれが爲め世人に惡評を受くる者も往々之あるが如し尤も交際の法則は種々苦々しき經驗ありたる上にて誰云ふとなく是々の事は人が爲さぬ樣に云々の事は何人も避くる樣と云ふとになりて次第々々に定まるものなれば現今不注意より惡評を受くる者は恰も已の幸福を社會の經驗の爲めに犧牲に供するものにして到底避く可らざる事なるやも知る可らずと雖も此の如き不幸を受くる者は成る可く少なく爲し度ものなり余は常に此事を憂ひ然るべき人出で今時に適したる女大學を著はさば大に若き男女中の爲に益する所あるべしと信じ居るなり然れども此の如き著の出ざるは言はず語らず社會に浮び居る法則を結晶せしめて一の書をなすの難きに因るなるべし。

余は固より此の如き重任を負擔するとは出來ざれども近頃余が胸中に浮びたる二三の事を述べて此演説を終らんとす余の考にては男女交際の原則は先づ左の如しと信ず。

男女の交際は優美高尙にして正しからざるとあるべからざるは勿論の事譬ひ實際不良にあらざるも他人の不良と誤解すべき恐ある所爲は謹しまざる可らず。

此の原則による時は歐米にて許す所なればとて一概におして宜しきと云ふべからず我邦の現今の有樣に照して遠慮すべきと多くあるべし隨分究屈なる事もある可れども如何とも爲す

べからず咎むべきは我開化の度なり。
我邦の婦人は未だ己の名譽を保護するの術に熟せざる故に男子の方にて不作法あるも忍ぶべからざるまでも忍ぶと云ふ處あれば苟も男子にして自らジェントルマン(紳士)と信ずる者は己の爲す所よりして婦人に迷惑をかけざる樣常に此原則を記臆して注意の上にも注意を加ふべし折によりては少しく外面にては禮を欠くが如く見ゆることあらんも其方反りて親切にして眞の紳士の名に背かざることあるべし」婦人特に年若き婦人は自分よて一行一爲を謹むべきは勿論のこと其父兄母姉も之を保護する樣不絶注意すべきなり而して上の原則を常に心に留め色々の事情起るに從ひ臨機應變に活用せば大に得る所あるべしと信ず。
此原則より起る細則二三の例を擧れば先づ左の如し。
一婦人は男子而已居る處を訪問すべからず。
若し婦人男子よ用事ある時は其父兄夫或は母に依賴して其事を通ぜば決して男子を訪問するの要なし縱へ己の兄弟と雖も下宿家或は寄宿舍に居るものは訪問すべからず若し是非共訪問するの要あれば母或は其他の保護人付き添ひ成る可く手重にして往くべし是とても決して度々す可からず。
箱根伊香保熱海の如き溫泉浴場に於ても男子而已居る部屋へは婦人は行くべからず。
一若き男子が特に若き婦人を訪問するは現今の有樣にては憚るべし又縱へ訪問するの要起るも年長じたる保護婦人の前にて談話すべし。
一若き婦人若し多人數の集り居る席に出る時は父、母、姉、朋友或は其他相當なる保護婦人と共に至るべし。
一結婚の約束整ひたる男女は相互の交際を一層注意すべし只二人にて他出或は旅行する抔の事は憚るべし現今社會の有樣にては約束整ひたらんには成るべく速に結婚なす方上策なるが如し。
玆に擧げたる二三の例によりて先の原則活用の方向も稍悟らるゝ事あるべし。(完)

○家內の會話

大學經一章に、家齊のつて而して後ち國治まる、國治まつて而して後ち天下平らかなりとあり。詩聖チイヅチルス云く、家に在て先づ我一身を建造し、事物の精神を吸飮し、而して後ち深く造る所ろの智識を得と。蓋し、吾日本國の基礎を永遠に固めて、其の眞正の開化を來さんとには、先づ戶々の室家、

即はち其のホームを健康清潔にせざる可らず。女學雜誌が大ひに任とするところ玆に在るを以て、吾人は嘗て日本の家族(女學雜誌第九十六號より第百二號まで)七篇を說て少しく考ふる所ろを述べたり。此頃ろ、博士ミルレルの「無言靜時」を讀むに、書中家內の會話と題したる一章あり、甚はだ有益の文と認めたるを以て、今ま左に其の大意を譯す。

ホーム(室家)に尤も大切なるは家內の人々の會話なり、然るに亦た此の會話ほど人々の頓着せざるものゝなきは實に悲しきことなり、家の內の能く飾られたる、敷物机椅子等の快よく齊のつたる、子供は學校に行き夫は仕事に盡力し妻は能く守り、一として甘まく調のわざるはなしと見ゆる迄なるに、何とて此の家內の會話と云へることに心掛る人の斯くは少なきぞや。

抑そも、ホームは溫愛優和の地なれば、其の家人にとつて、地球上凡そ此れほどに樂しく此れ程に面白き場所はあらじと思はるべき筈なり。左ればその家人も亦た、最も善き心得、尤も善き氣質、尤も善き身持を此のホームの內に荷なひ來るべきは勿論、其のお互ひの話しは、即ち此のホームを立派にし、高尙にし、淸潔にし、何事につけてホームの感化を淸くするやうなる効能なかる可からず。故にホームに於て會話する人の舌は、常に愛を以て充滿するを要す、然るに實際の多くの室家を見るに、其家人會話の亂暴なるは實に驚ろく計りあり、先づ朝たに起き出で、共に喜ばし氣に「お早よう」と言ひ合ふこともなく、又た夜別れてそれ〴〵に眠るときも心よりして「お休み」と言ひ合ふこともなく、食事するときは沈默無言にして何の談しもなく、時に火爐を取り卷きて心置なく物語りする等の樂しみもなし、若し人ありて如此き家を見れば、此は是れ聾と啞との病院ならん、左なくば旅人がたゞ假りの一夜の宿に止まり合わせたるならんと評するなるべし。但し無言なるが必しも惡しきにはあらず、時としては寧しろ無言にてあれかしと思はるゝ折のあるなり、即はち昔し神前に於て偕老同穴を契りたる夫婦が、今は斷へず日々に喧嘩口論する、又は親にして深切優和なる言葉附もて其の子に敎へたることなきなどあり、斯るときは其の談しの一句〳〵皆な毒を流し、家內に害惡を漲らするの元とはなる也。凡そ夫婦は、其會話に於て常に優しく溫和なるべし、怒りたる聲音、怒りたる話し風等決してあるまじきもの也、特に輕蔑の言語、もしくは過ち

を誹るの言語等は決して其會話中に混ず可らず、其心中の温愛優美が一語一語に流れ出るようにてある可し。又た、親が其子に於ける會話も、矢張り温和鄭寧にして決して亂暴過激なる可らず、喧嘩口論、若くは亂らなる物言ひの空氣の中に、子供が立派に育つべしとは思はれまじき者なり、蓋し激して怒りたる言葉の子供の心に於けるは、恰かも嚴霜が優なる美花に於けるが如し、之をして甘まく育たしめんと甚はだ覺束なし、然るに之に反し、深切なる優しき言葉は、喩へば春光春雨が庭の草花に於ける如し、之が爲めに美なる子供の育ち出でんは敢て疑ひあきと也。

此は只だ原文の玉を、瓦の如くに變へたるもの也。

○明治小說、すじがき　是空子

第一篇、　才子演說せり。

第二篇、　佳人恨望す。

第三篇、　才子佳人を伴ふ、めでたし〳〵。

○不性物懺悔ものがたり　みどり

棚の茶碗を取るには伏せたるを取れ、(兎角取がけに物を覆ぼし候)

中に這入つたるものを覆すの心配なし。

物を取片付くるには先づ箱をつくれ、(兎角片付るがをつくうに候)

自然とそれ〳〵に納所が定つて方付く。

爲すべきとは爲せる時に直ぐと爲せ、(兎角後れ勝ち厭や勝に成候)

後るゝほどイヤになつて遂に大延引す。

儉約は一錢より用心は身の廻りから、(手近き所ろが兎角拔けて候)

一錢を惜めば二錢は勿論、身の廻に用心すれば其外は勿論と相成る。

會計は豫算を確かに勘定は一錢でも、(兎角勘定合ず入費嵩みて候)

豫算が曖昧で金の出來たる人なし、勘定の一錢でも餘る時は必らず大ひなる間違ひあり。

十分で手紙一本三十分で一軒は見舞う、(兎角ヲツクウになつて候う)

と覺悟すれば、返事も後れず御不沙汰にも成らぬ、餘計かゝると思ふゆへ延引する。

以上此週間によく〳〵稽古し違背あるまじきもの也。

○孔明の兄弟

蜀の孔明江を渡つて吳に來れる時、孫權諸葛瑾に向て云く、汝と孔明とは骨肉あり、何んぞ此を吳に止めざると云ひしに、諸葛瑾答へて、孔明すでに玄德に事へて義更に二心なし、必らず此に留まらじ、猶ほ臣が他に行かざるが如しと。

評。一讀、淚の下るを覺えず。

小說

○哲女の鑑

第四回　空蟬（上）

月の舍しのぶ

時は七月央ばを過たり、天朗らかに晴れて暖氣特に強けれども、不忍の湖邊は冷風坐ろに水頭に起り、恰かも滿開したる蓮花の香を送り來つて、行人を蘇生せしむ。右手に東台の森かげに覆はれ、左手に此の香ばしき風に搧がれ、飄々として徐むろに吟行する一紳士あり、黒單衣のフロックコート、輕ろく翻がへり、白のチヨッキ僅かに金時計の龍頭を現はす、風釆何如にも沈着にして、且つ卓平高尙の態あり、後へに車夫は黒塗車を引いて靜かに從がひ、極めて慇懃に之に仕うるが如し。紳士は既でに歩みて東照宮傍の石段下に至り、再たび車に乘ぜんとする時、恰かも段を降り來りたる一紳士は忽まち此方を呼かけ、

ヤア、春日君

チー、宮本君、どちらへ

と云ひ乍ら、復たび車より降りたり。宮本と呼ばれたるが先づ之に答へて、

ぶら〳〵此邊を散歩してるんだが、君は何處へ行のか。

根岸の例の四條へ行く積りだが、君、今日はいよ〳〵最後に迫まつたよ。

そうか、急ぎ玉ふのか。

別よ。

それじやあ最少し一處に歩るき玉へ、話さうじやないか。

よからう。

と云ひつゝ一寸と車夫に合圖する如くに指命し、彼の宮本とか云へるに相伴なつて彼方に歩み向う。宮本先づ問を起し、

何如いふ最後になつたのか、今日が即はち申出とでも云ふのか、然し君ソレは既に前に一度濟んだジャアないか、再たび失敗して朋友の名譽を損す可らずダデ。

ハヽア、そう何ん度も失敗して溜るものか、ダガ今日は其樣あジャレた事でないのだ、とう〳〵止を得ず老人の面を剝いで遣らなくつちやあ、あらなくあつた。

そうか、然し君十分確かな證據を擧て言いんと、迚も信じられまいぜ、何か好い證據が手に入つたのか。

春日剛は甚はだ得意らしく、而も甚はだ苦々し氣に、

どうも、彼奴には驚ろいたよ、大坂の相場で悉皆四條家の公債を失なつて仕舞つて、其上根岸の屋敷地面は悉く抵

當に這入つて居ると云ふのだ、夫丈ならばだが、君、彼奴は今度急はかに札幌に行ふとして居ると云ふのだ。

ナニ、札幌へ、一人でか、ミス四條（四條令孃）は何如するのだらふ（此の末語を曲げ乍ら又た顙を曲げ、密かに春日の顔を見る）。

剛はいよ〳〵不快らしく、且つ慷慨の怒氣を帶びつゝ、少しく音聲を鋭どくして、携へたる杖にてハツシと大地を叩き乍ら、

連れて行くと云んだ、イヤ殺ろしに連れて行くと云んだ、既に君、財產を奪つてサ、幸福を奪つてサ、其上女の固有の愛情をも失なわせて、まだ厭き足らず之を殺ろさんとするのは……

巡査は立止まつてジロリと見たり、

之を殺ろさんとするのは……

再たびハツシと地を打つたり、巡査はビクリとして後すざりしたり。宮本はから〳〵と笑らひ、

君よし玉へ、ポリスが奇しんで居るワ、……夫れで君が今日行つてどう仕樣と云ふのか。

最う外に手段は無い、此丈けの證據をミス（令孃）に見せて、事に寄つたら、老人を面前で、悉く責め付けるか、左樣なくとも確かにミスの札幌行を止めて仕舞う積りだ、而して是非あの老人を遠ざけなければ成らぬ。

ウ、よろしからう、然し君餘程穩やかに遣り玉へよ、君は平生の沈着に似ず、どうも時々は餘り激し過て行かん、君はまだウインン（愛を求むる）せねば成らぬ紳士なりと心得て、餘り手ひどく亂暴し玉ふな、厭かれて仕舞うよ。

滑稽は時としてセーフテー、バルブ（蒸氣關の漏氣辨）の効あり、此の一言の冷評は滿腔の激情を傳へ去る避雷針と爲り、春日剛は啞然として笑へり。

ヤア、知らぬ間に天王寺に來た、春日君それでは甘く遣り玉へ、僕は此の內へ行ふ。

そうか、夫では失敬、何れ明日あつたら話すよ。

失敬……失敬。

車は轟ろき去つたり。宮本忍は佇立して掛念らしく見送り、

哲學者もまた多情の人間だナア。

深遠カントの如く博學スペンセルの如く雄辯マルクの如く宏辭マコーレーの如く雄略ビスマルクの如く圓滑メトルニッチの如く品行フランクリンの如く愛國ワシントンの如く詩はミルトンに似て飢はハムプデンと同じく女權贊成は女學雜誌の如くならん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

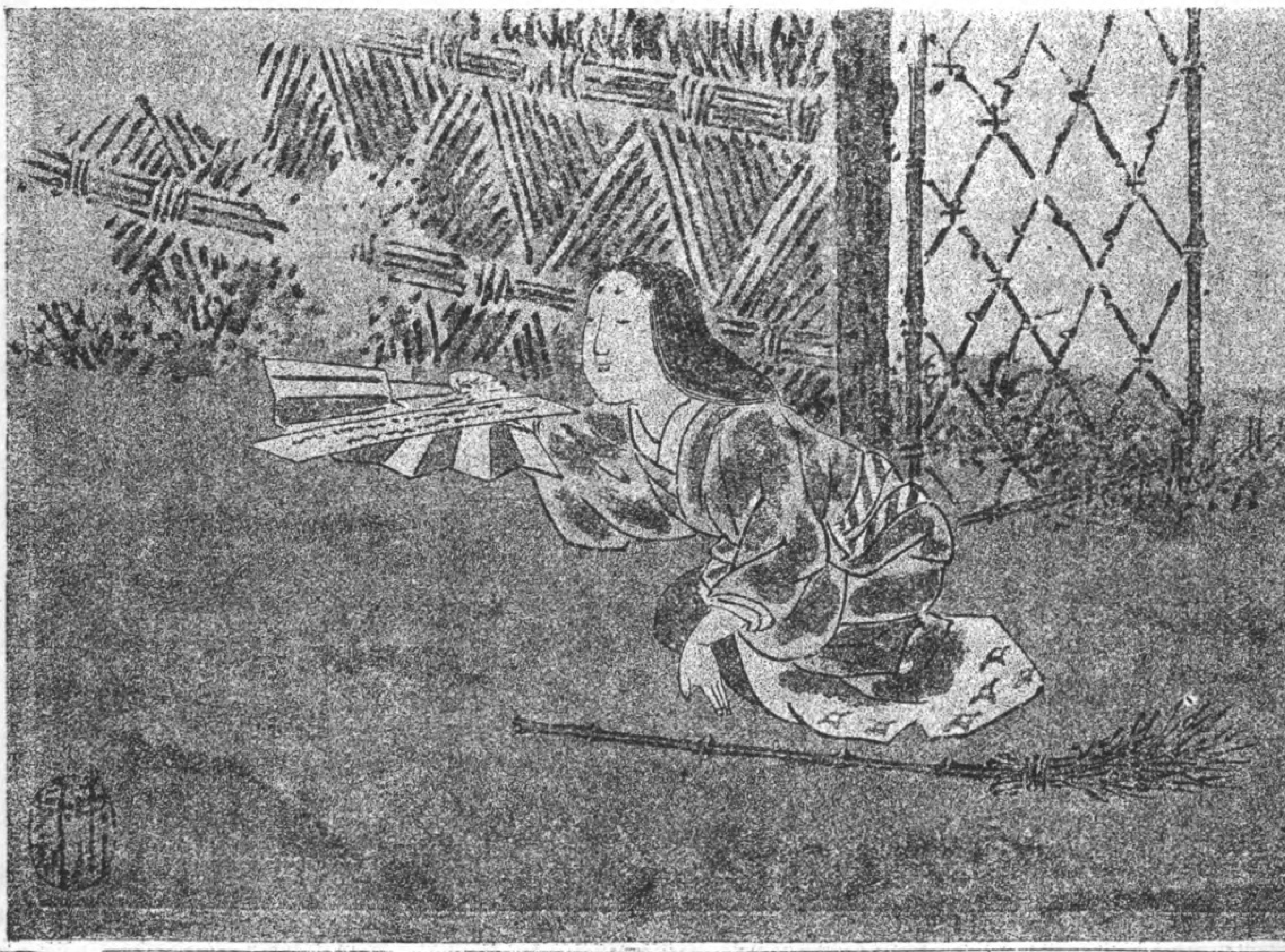
○さすがに雙紙　第七編(下)　美妙齋主人

やがて日も次第に天の半程まで車を輾らせれば、雪の肌も暑熱に解けてか、汗の雫をしたゝらせます。　更に立戻ッて前の話の結局を敏捷に問正すその間にも時子は額や鼻の邊の汗を拭ッて居るありさま、左樣です、不養生な汗さへをばさすがに用ゐぬ證據です。

聞けば花房が犯罪したとの證人には駒ヶ嶽で花房にあッた百姓が立ッて居るとの事で、それよりもまた一際意外なのは栗殼もやはり犯罪があッてそれで實は探索されて居たとのことです。

駒ヶ嶽……實にいまさらその山が怨めしく思はれます。山の影は今でも目の中に印象をば殘して居ても意中の人のその影は……發矢……思入れば胸も應へて烈しく搏ちます。暇を告げて歸る途も胸の中の苦惱は前に倍して居て、而も道筋の人が自身の子供を「駒」と呼んでもその「駒」がまた生憎よ耳を穿つやうで……

家へ歸ればまだ坐りもせぬ内に「どうだ樣子は分解ッたか？」と問ふ父親の熱心を見るにつけ、むねぐるしさは洩らしかゝッて居て却ッて量が大きくなります。　話す……問……



言ふ……あなぐる……終尾は兩方が溜息です。

何も手にはつきません。　今朝來た新聞紙の小說、今日ばかりは愛顧を失ひました、そのくせ時子たちの眼は一度その新聞紙に注がなくはありません。がそれは只「花……」といふ字を見付けたいばかりでした。　午後一時頃になッてやうやく十二時過だと氣が附くほどです。　毎も來る夕刻の牛乳の配達に日が昏れるのだとはじめて知らせられます。

「どう？」、「不思議」、父子二人の中に往來する言語は大抵このくらゐなものです。

手持無沙汰らしい夜はいつか忍寄ッて來て洋燈にのみ地位を與へます。　薄明……共に月も浮雲に潛んでわづかに哀れな息を雲の角々に噴くばかり。見立てれば此夜ばかりが凄じい晩です。

ひとり居間へ退いて端居しながら庭の木にさへ哀を寄せ、

「木犀……花房さんは大層御前を好で、開く時をたのしみにして居たけれど、何時青天白日の身となるか分解らず……待ちに待ッた御前の香もかぐことは出來まいよ」、

とは咳きましたが、「香」といふ事から考はすこし別の途へ入り、しばらくまたそれから先へと移ッて行ッて、そして後やうやく心注き、

「……だけれども栗殼……どうも妾は變な事を言たり何かして可笑かッたが……本當に死だ……殺されたのか知らん」。

なぜ左樣うたがひ出しました？　それは時子も知りません。　原因はありません。　が原因の無い推察も思案の中には出て來るもので。

「死んだのなら大變だがもし死ないのなら活て居る筈だ」。

それは當然です。

「たとへば死んだにしたところが、それでもどうか證憑不充分で無罪放免とは爲らないかな。」

私の情も出て來ますでまた思返し、

「が、そンな事は迚も無い。　よし有ッたにしろ、それでは心がいさぎよくない。　本當に花房さんがそンな無謀なことを爲たならば、あの人も取るに足らぬ人だ。」

あッぱれ、賢女、感心ですが、直にまたその下から、

「あの人も取るに足らぬ人？　取るに足らぬ人？　ちよッ「一卵をもッて干城の將を棄つ」……すでに人間には瑕があるもンだとすれば左樣手强くも判斷されないが」……

茫然として眼を庭へなげうては、いえ、むしろ風に呼ばれ

て庭を望めば、我に何か忠告でもするやうな躰でざわだッて囁く非情の草木。　非情？　有情らしく見えます。

「あゝあア…「風は疎竹を吹いで竹聲を止めず、厂は寒潭を渡ッて潭影を殘さず」ッ…からなッちやア仕方が無い。たゞ苦勞ばかりして居るのも能ぢやあるまい。　ヤッぱり盡くせるだけは救ふ手段を…あゝ木犀」。

「木犀」といふ木の考は直に「松」とか「檜」とかいふ木へ轉じ、その極は…「栗」…「栗殼」ともまた爲ります。

「栗殼…故郷は神奈川だと言ッたッけ」。

(美妙齋白す、この回の書方は何やら奇怪な躰で、ことにこの詰問などは何々あやーうムいますが、ちとこの詰問に重量を置きたい計で斯う爲まーた。この詰問が何の益になるか、うれらは後々よ行ッて明亮になります。それ故、憎ーうムいますが、みじかく此回は是で終ります。跡は次號)

○小説神髓

蘇格氏著ケチルチルス　(第三十回)

レスター侯は更めて陛下の御前に出で此度は以前と打て變はり容顏を樂しくし辭色を面白くして只管ら陛下の御意を慰さめ奉まつれば龍顏ことに麗はしく御寵愛にはかに百層に增したるよう思はれたり、時に典醫來りて申し上ぐ、陛下顧みて彼のかけ落の花嫁御寮は何如せしぞと御問ひあるにレスターは笑ひ居たる顏の線を一つだに變ゆるとあくして典醫の申立てを聞きたり、典醫申すらくレデー、バーチー(エメの事にしてバーチー夫人と云ふの義なりア、悲しむべし)は御前に出で、何事をか申す迄は何をも問答せずと言ひ張り甚はだス子て見へ玉ふと云ふに、陛下は苦笑し乍ら彼の腦を煩らひたる御婦人には困り入る此事では四方八方に間違ひを起してお互ひに迷惑したるとよと云ひつゝレスター侯の方を御覽あるに侯は何如にもと申す樣にして平伏したり。陛下は重ねて問はせ玉ふ扨て其の樣躰は何如ん、さん候矢張り一種の狂氣にて候られん其の自宅に於て良人の介抱を受くるが何よりもの治療法にて候はん兎角何か勳爵附の夫人のように自分にて申し居らるゝが之は能く狂氣の人に有りがちの事にて眞とに慣れなる事に候と申す、陛下も憫れがり玉ひて左ては早々バーチーに預くるが宜しからん那れ程に美しきものが狂人となるとは實に可憐の事なりレスター侯彼の美を何如おぼしめす平大方た侯は風に折られたる百合の花の如く柔軟ある婦人よりもジユウノの如く嚴しき婦人をこそ愛さるゝならん兎角男の人の好は分らぬものぞ左は思はずやと傍の侍女に戲むれ玉ひつゝ眞やレスター殿よ蠟細工の如き花嫁を與へしならばハチー

ムーン(婚後遊)の終らぬ先に早や死ねかしと望まるゝならんなど申さるゝに、レスター侯は最と微かなる聲にて臣が愛は始終從はねば成らずて命ずるとの出來ぬところに思ひを置きたるゆへに左樣思し召す如き高尚なる愛を知るものには候らはずと答へ上しにぞ、陛下はサット顔ばせを赤めて默し玉ひける。

斯て暫らくして英國人祖先來の事を面白く仕組たる演劇興行初まりたり、人々は興に乘じ我を忘れて打ちさゞめく時レスター侯は密かに身を脱して人の見ぬ靜かなる陰に入り新らしき氣を吸ひて休息し居たりけるに。

"I thought it base to be travelling for his pleasure abroad, while the Countrymen were contending for their liberty at Home." Milton.

佳傳

○魯國の孝子エリサベッス、ロプウロッフ孃(其三)

さはさりながら如何にして天子に面晤せんか是ぞこれ孃が今日まで堪へ來りし困難よりも尙一と入の困難なりきさる程に孃は如何にしてか天子に謁せんものをと思ひて屢々王宮の門に至りしも心なき番兵等に罵り嘲けられ追拂はれければ心ならずも我宿へと引退きたりき如此すると殆んど二ヶ月餘にもなりぬれど絶て其功なかりけるが或日情深き人ありて近衛士官の夫人に細々と此のとを告げけるに此婦人は皇后宮亮なる人の夫人と知合ありければ瞬間なりともエリサベス孃に面晤の時間を與へられんとを願ひたるに諾はれければ孃は直ちよ入て其經歷を語りける。

皇后宮亮夫人が痛く感じてをまいは感心な子じやされば今日までもをまいをつき守りたる神あれば此後とてもおまいを見捨る筈はなかろう故おまいの爲に我夫に盡力させんとは神の思召だろうと慰め居たる折しも皇后宮亮歸り來り直に奏問せんとてエリサベス孃に午餐など進めさせ忙はしく身仕度なして王宮へと行きたりける然るに皇后宮よりおそれ多くも今夜十時につれ來れとの詔を蒙りけるにぞ貧き賤の女のかくまで深き惠を受けんとは嘗て思設けざりければ其恩命を賜はりしときには色青ざめて心地さへ常ならざりき漸くにして氣を取直しこぼるゝ淚を推ぬぐひ天を仰き嗚呼とふとき神よかくてこそ妾の願言も空しからざりきと叫びつゝ夫人の手を接吻なしうれし淚にかきくもりける既に夜に入りければ皇后宮亮は孃を伴ひ行きしよ皇后宮にも深く憐れに思召され其經歷を細々と御尋ありける。

エリサベス孃も初の程は震へ懼れ居たりけるが次第に落つきて陛下よ妾の父は無罪で御ザイますれば決して御赦はお願申しませんが彼が告訴を御再審下ダサイまして正當に御取計ひを願いますと奏問に及びけるにぞ皇后宮にもこゝろに感涙を催され孃が勇氣と孝心とを御歎美遊ばされ先づ當座の御恩賞として金百フランを賜り尚も以後の善行をすゝめられけるエリサベス孃はかくまで賢明なる皇后の恩惠に堪かねて暫し感涙に咽びあへざりき。

かくて魯國皇帝も皇后の願によりてロプゥロッフ氏の再審を命じたりしに無罪のよし明らかに見とめられければ直に自由の宣告あり殊に恩命にて夥多ある年金を賜りける剰へ傳襲年金なりければ夫死して後妻子も其恩惠に浴したりとぞ。

世には戀路に踏迷ひて身を失ふもまゝあれども二八の春の花を萬里の旅に散らして顧みず唯一筋に父母の身を思ふ此孃の如きはいと稀なりされど急流の下必ず閑潭あり困苦の後必ず安逸來るものなれば此孃の如き卑賤の身を以て萬乘に咫尺し邊海萬里の悲難に沈む一家を擧て百歳室家の歡樂を全ふし長く世人の龜鑑とある豈偉ならずや心あるもの自から警めざるべけんや。（完）

寄書

同窓の友○○○○子ぬし一日のこと妾がもとを訪はせ玉ふて四方山の物語の末微笑ながら一通の手紙を取出給ひこれ窃はせ世にも情ある人の玉章に候ぞかし去ぬる日妾が女學雜誌に○○○の淸徒に告ぐてふ題もて嗚呼がましくも論つらひけるをいとはしたなしとて意づけ給ふものになん男の子の筆の蹟には侍れども何人ぞおはすやらん雲かくれにし名を知るによしなし亂れ苦しきより糸のむすぼれとけぬ節々もあるなれどそは後のことゝせんやよ心して見給ひねといはるゝまゝに打ひらき讀續けるに實に怪しうとこそ見つることの多かればぬしの推辭み給ふをおしてこひまつり返矢ひとすじまいらすることゝはなりぬ。

女學雜誌記者
侍史
芙蓉女史

拜答仕候滿篇に溺溢ずる卿の親切と愛情とは妾をして不覺ろに卿の風釆と氣節とを敬慕せしめ候加ふるに雄麗の筆壯嚴の文ボルジルを走らせミルトンに氾するもの敬服の外無之候乍去卿よ飄逸精勁の筆鋒も遂に以て其說を枉ぐるを得ず汪濊富贍の文詞も遂に以て其眞を蔽ふ能はさるものとせは哀はれ微妙じき卿の好文字も亦妾の爲めに眞如の窓を開くの楽となすに足らざる也何を以て云ふ聽妾說あり請ふ之れを聽け。

世の中に女の子ほど羨ましからぬものはあらじとは往々女流の口角に洩るゝ不平の嘆辭なるが如何に重大の義務を負ふものは重大の權利を有つてふ原則より流出する自然の結果とは云へ如何に恒久の風習より繼續せられたる今日の情況とは云へ男女の關係君臣の如く主從の如く一言耳に逆へば罵詈百出鐵拳交て頭上に下るも一人の之れを咎むるなく又自ら敢て意となさゞるか如きに至つては抑亦甚太しと言はざるべからず妾は彼の泰西婦人の如く車に駕せんとするの日男子之を抱きて道に行かんとするのとき男子之れを擁し常住坐臥維男子の介保を受けたしと云ふにはあらす只十九世期に於ける日本婦人の一人として彼の有髯男子と共に相當の權利を有し相當の義務を負ひ社會の表面上に雙々轡を駢べて馳騁談笑するの娛樂を全ふしたしと思ふのみ只た將來日本の新劇場に折半の地位を握有する淸淑洗靜なる日本婦人の一人をも彼の牛馬の如く豕犬の如く醜醜猥褻耳を掩ふの業を營むなからしめば仰て天に慚ぢず俯して地に愧ぢず花下の銀鞍以て淸遊を試むべく月前の一棹以て船を遣るべし願ふは優美閑雅の性情を其中に發達せしめんとするにあるのみ。

嗚呼權利嗚呼快樂彼自から動て來るものにあらす斯邁爾斯自助の一言は儘かに今日女流の上に適用して不都合なき也否寧ろ之れを適用し之れを實行するにあらざれば妾等か前途に懷く幾許の希望は空しく化して泡沫とならんのみ空しく去て一時の蜃氣樓とならんのみ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

去れば今日は正に是れ女流社會が確然動かす可からざる基礎を大磐石の上に定むるのとき換言すれば悠々無事に苦む守成的時代にあらずして多忙多事日も亦足らざる建設的時代とこそ言ふべけれ此時に於て妾等姉妹は各自の眼界に反照し來る政治宗敎文學技藝の新摸型に依て熱心壯位地を形作らんとするに際し尤も不幸なる尤も氣の毒なる否寧ろ尤も嫌惡すべき一大障礙の同胞姉妹の上に籬生したりとせしか此の期に及んて妾等は人の毀譽褒貶如何に拘はらず進んで之れを排除するに力を盡すべきは勿論のとなりと信ずる也　夏しや九牛の一毛能く之れを動かすを得べきにあらずとするも一少婦の熱心は以て帝王の圍みを解くに足るものとせば妾等は遂に遺憾となさゞる也。

妾は世に雖有卿の厚情に對し全心を擧け極めて深き尊敬と愛情とを表出すると同時に卿か所謂生意氣なりとの一言は未だ其是れを發見するに至らざるを悲むものに御坐候烈愛なる卿よ頑倔自から覺るに敏ならざるも猶諭ゆべくんば幸に教示を垂れよ、敬　具。

新　報

（此欄内自由に轉載を許す）

○宮廷錄事

掌侍正六位園祥子の方には御妊娠中にて青山御所脇の御產所ゟ移り居られしが去月二十九日夜を以て皇女御降誕あらせ給ひたる由に承はる

○髮きり

久しく聞かざりし髮きりの評判、近來少しく聞ね出でたり、現に過日府下上野櫻木町山邊某の女(二十年)は、一旦帶と切られたるのち、今に至て尙ほ伸びるに隨ひて切れ去ると云へり。此の女目今大學病院へ入院中にて、佐々木敎授其病元を研究中なるが、先づ只今の考によれば、之を特に婦人の持病の一とするとも疑はしく、又果して之を一種の病と爲し得るやも疑はしき由にて、何分確たる解說は未だ定まらざる趣きなり。

○日本赤十字社　同社にては本月二十六日上野公園内華族會館に於て萬國赤十字社創立二十五年記祝典を執行し當日　皇后陛下の行啓を仰ぎ畏きに　勅裁を蒙りたる社員章を頒付し併て有功章授與式を執行するとに決したりと云ふ。

○石黑軍醫總監の獨逸婦人說　此頃ろ北越醫會の席上に於て同總監が洋行歸りの談話ありたる中に云く日本婦人は何卒獨逸の婦人を學ぶやうに仕度し獨逸に參りて上流婦人の有樣を見るに其の儉約質素なると實に驚ろく斗りなり首や腕の飾りにても銀の品より用ひたるとなし只だ婚姻の時にのみ黃金にて製したるを使うとぞ而して下女を使うとも甚はだ少く台所の仕事をも自ら手を下して働らく程なりと云ひとありき、何さま獨逸婦人を妻にしたる某博士が日本の婦人を娶りたるよりも余程儉約なりと云へれたるとあるは今更ら尤もと思へる。

○岐阜婦人敎育會　同會は旣に贊成員も七十餘名に達したれば不日贊成員總集會を開き學校設立の場處及創業費等を議し遠からず開校の運びに至るへしと而して創業費は贊成員の寄附を仰ぎ維持は月謝束脩を以てする見込なりと云ふ。

○近江婦人慈善會　同會は十月廿、廿一日の兩日間大津商工會議所に開くとに決し同委員を村田利兵衛、木村小兵衛、關守久兵衛の三氏に托したり又入場切符は會員外の者へは一人金二錢とし會場を五部に分ちて出品を陳列し一部に婦人五名宛を以て擔任せしむると云ふ。

○二俣婦人交際會　駿岡縣豐田郡二俣村の有志者は兼ねて婦人會を起さんと盡力中なりしか遂に去る十二日同村灘の下温泉場潺々館に集會し第一回婦人交際會を開かれたり同日は雨天なりしにも關はらず來會者十八九名もありて伊藤伊吉永井元高兩氏の演說等ありて散會せられたるは黃昏なりと云ふ。

○婦人勸業會社　秋田縣秋田にては二三有志者の發起にて婦人勸業會社なるものを設立せんとて去る十三日其の筋に出願せる由聞く處に依れば同社にては商店と授業場を設け商店には授業場に於て製造したる物品其他小間物呉服反物等より日用必需の筆墨紙等に至る迄一切の物品を陳列し授業場の生徒に之が販賣を司どらしめ授業場には編物手細工裁縫等の敎師を聘し滿九年以上二十年以下の女生徒を募集し傍ら物品を販賣せしめ商業を見習はせ專ら實業を敎授せらるゝと云ふ。

○海軍武官女子敎育會館　今度橫須賀鎭守府參謀長黑岡大佐が發起にて在橫須賀高等武官の妻女姉妹を敎育せん爲め造船所官舍を借受け三年を卒業期として内外敎師を招聘して普通學を敎授せらるゝ由。

○大坂婦人慈善會　同會は去月二十四日大坂府東區道修町二丁目の學習會に於て發起人の相談會を開きしゟ忽ち數多の贊成者現はれ入會を申し込みたる者殆んど百余名ゟ及びたるを以て右の人員中より役員を撰擧せしに會頭には兒島惟謙氏の夫人副會長には廣岡信五郎氏の夫人を當撰せりと云ふ。

○新潟縣學事年報摘要　新潟女學校は私立に係り女子高等の敎育を施し天賦の美質を美成するため有志者の設置する所なり其敎員は男一名、女五名にして内二名は外國官敎師なり生徒は五十名あれども其學業の進否は設立日尙ほ淺きを以て玆に陳述する能はず　各種學校の公立に係るものは產婆學校商業學校の三校なり其產婆學校は縣立新潟學校の附屬にして敎員男一名女一名、生徒三十名なり而して學業の進否は前年に異なるなし商業學校は從前私立なりしが漸次其規摸を擴張するの目途を以て本年より之を區立と爲せり敎員は男一名、生徒百一名前年に比し六十八名を增加し漸次隆盛に趣くの狀を呈せり又各種學校の私立に係るもの二十六にして前年に比し四校を增す敎員男六十二名、女一名、生徒男千二百十四名、女二十五名なり之を概するに其過半は絆質變ならず維持の方法鞏固ならざるを以て敎員の學力も亦之に伴ひ淺劣なるものあり故に學業の進步著しからず。(九月廿

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一日官報)

外報

(此欄内自由に轉載を許す)

○病院の子供等、皇妃の書を受く　此頃ろ英國皇太子御夫婦の銀婚宴ありし節チエルシアのビクトリア病院にある病める子供等は何がな献上して御祝ひの志を表せんと思ふ中ち或人の心附にて皇太子の像の彫刻こそ尤も宜しからんと相談し之に書狀を添へ六十六人の名に印して献げたるところ日ならずして皇妃より左の御返書を辱ふしたりと云ふ。

吾が親愛する子供等よ、銀婚宴の祝ひとして斯る美しき贈り物を余に寄せたる汝等の深切は深く吾が心を打ちてうれしく思ひ候ぞ此品は久しく保存して言ひ述べがたきほどに大切に仕舞ひ申さん神が汝等を惠みて速かにこの健全と幸福とに返らんとは汝等の友人たる吾れの尤も眞實に望み且つ祈るところなり、

(アレキサンドラ。)

○法律博士　アイルランド國大學よて理學士の位を得たりけるレチチア、エー、ワルキントン孃は更に法律學を研究し此頃ダブリンにて開かれたる試驗に及第して遂に法律博士の位を得たり。

○英米民の結婚　米國の婦人が英國高等の紳士に結婚するもの次第に多くなるに付ては之が爲めに大に喜ぶものもあり又大ひに不平なるものもあり其の不平なるものは近來ハムマースレー夫人と云へる寡婦が英國のマルボロー侯に再緣したるよ付きて又もや八釜しく論辨して云く、米婦人にして英國高等の紳士に嫁したるものは何れも面白からぬ婦人方なるのみか其婚姻が面白くなし先づチヤーチヒルの妻君の事は申さずともアンゲルセー男爵に嫁したるはラーデハウス夫人と云へる後家にて而も男爵に取ては三度目の妻なり、グラントレー公は以前マックビッカー孃と申し嫁イてノルトン夫人と云へるが離緣せられたるを娶りて公爵夫人としたり、エドワードホルンベー君は第三の妻として紐育のロバート君の娘を娶り、ローデリックカメロン君は又た二度の妻としてリーベンラルス君の娘を娶りたり云々と尤も、悪風評のあり氣に書たり。

○大統領クリーブランド夫人と其舊友　ワシントン府内の貴婦人中に近頃一種の困難起りたる其源由を尋ぬるに夫のクリーブランド夫人が嘗て同窓の信友たりしケサリン、ウイラード孃との親密なる交際にありと云ふ抑も此ケサリン孃が客冬クリーブランド夫人の招待に應じて初めて大統領の宅に寄寓せられしとき夫の上流社會の貴婦人たちは皆孃の容姿の美麗なると其音聲の清朗なるとを以て大に孃を厚遇せり後今年の春孃は或る地方の小き女學校の敎員に聘せられしより人々は孃は已に常人の社會に入りし故最早大統領の奧方に招待せらるゝ樣なる事はなかるべしと思ひ居りしに爾後夫人が孃に對する友情は少しも前と變ることなく今年夏も亦オークヴイユに於て客禮を以て孃を待遇せしかば夫のワイ〳〵貴婦人が是を有るまじきこととして噪ぎ立てしなりと文明野蠻を問はず、上流社會の者は斯の如き卑劣のものにやサリトハ夫人は能く舊友の信義を全ふしたりと云べし。

○ベルリンの婚姻　獨逸のベルリンには婚姻を所望する婦人餘程多しと見へ此頃ろ府内の一商人が結婚の廣告を爲したるところ申込人凡そ二百七十七人ありたり其内八十七人は二十五歲以上五十二歲以下のヤモメにして尤も四十二人は子供なく二十一人は五百弗以上二萬弗の財產を所有するものなりしよし而して又四人はヤハリやもめなるが先づ再嫁して運をためさんとの申入り尤も其内の一人は三度目なるよし扨て殘り一百八十六人の中ち二人丈けは年三十以上と記入し十八人は丁度二八と相成たりと記入し寫眞を封し入たるは七十一人にて其中三十一人は中々の美人なりしよし。

○女子の男裝　佛國のデウラフホイ夫人(Dieulafoy)がペルシヤより歸り早々本國の法律をよくも知らずして例の如く男裝し巡査に捕へられ警察署に引行れたりと迄では驚きに承知したるとにて其后何如なりしやと心配したる所ろ申分け明白に了解され其后も引つゞき男裝し居らるゝよしにて或る新聞紙などは切りに其の風采の宜しきことを賞め立たり。

○婦人大きく爲れり　近頃ろ米國にて久しく仕立屋をしたるものゝ申すに婦人方は近來餘程多さくなりたり千八百五十六年七年即ち今を距る三十一二年前には年若の婦人の衣物は腰の廻り十九インチ(一尺五寸八分八厘强)婚姻の時の禮服にて十八インチ(一尺五寸〇四厘强)尤も大きゝ婦人方にて平均二十インチ(一尺六寸七分二厘)なりしが今日にては二十歲二十二歲位の娘子にて平均二十三インチ(一尺九寸二分二厘强)あり若又五ヒート七八インチ(五尺六寸六分八厘)程の丈の婦人方は大抵二十五六インチ(二尺〇九分)の腰の周りありとの事にて大層な御成人なり」此はそも何故なるや臀も腰も大きくなりしとの事かそれとも腹を固くシメテ下を押し出したりとの意味か若しくは全く大きくなりしにや。

○大學への遺金　米國ニウハムプシア州マンチエスターのウイリアムリチヤードソン夫人は其の財產中よりアンドーバル神學校へ三萬五千弗乃至四萬弗を寄附すべしと遺言して死去せられたり。

○ベルリンの母教務局に出願す　此頃獨逸の都ベルリンの母親達は教務局及び下院に建議書を出し女性が尙少し高等の教育を受け得るように(少くとも宗教、文學、國語丈にてもと云へり)取計へれたく且つ其教員は女性にせられたし男子は決して少女の教師として適當するものにあらず云々と申出したるよし願書に署名したるものは凡そ九千人あり自由黨の議員等代つて此願書を上進したりと云ふ。

○婦人結婚組合　支那クオンッン州のシユンテー郡にては年頃の婦人が申合せ仲間を結びて堅く約束する要領は仲間の者の結婚は悉く同時ならざる可らず若し已を得ずして結婚の式を行ふとも仲間一同の夫定まらざる以上は決して夫と同居せざるべしといふにあり左れば新婦は結婚の禮終るや否直ちに歸宅し唯新年を祝す

る時若くは必要ある場合のみ夫を訪問し是とても夫の家にて飲食するを得ず成る可く早く辭し歸ることゝなし居る故結婚後少くも二三年の間は大概夫と同居するものなく萬一夫の家を訪ひたる節夫が強て其歸るを差止めんとすれば生命を擲ちても之に抵抗するの習俗なりと云ふ（九月廿九日朝野新聞）

小供談

○小供と而して猫

此頃は段々と寒う成つて早や日向が心地好く成ました。十三四の子供が椽側に出て日に當り温かくなるに連れてそろ〳〵と眠り出すと猫もグル〳〵と鳴き乍ら膝の上に來ました、アヽ面倒なと言つて除けると又暫くして出て來る、彌よウルサイと云つて叩き除けるとニヤン〳〵と泣て逃げました。最早安心と思ふて復た眠りかゝると、最と小さいお婆がヒヨコリ〳〵と飛んで出て來り何やら銀の糸のような者を持來りて躰をぐる〳〵と卷くと見たれば何時の間にやら其身は猫と化したり、彼の婆さま同じく猫を卷くと見る中に猫は見る間に大きくなつて吾が元の姿となりたり。此時お母さんが出て來てヲヽ悌坊や此の葡萄をお上りと云つて甘さうなのを下さると猫めが悌坊の眞似をしてグル〳〵と言ひ乍ら之を食べる、アヽ口惜しひ母さん夫は猫で御座います私がアナタの子で御座いますと云つて驅け寄ると、ヲヤこの猫は何を八釜しく鳴くのだ彼處に鰹節をふつた御膳があるでは無いかと叱られたり、イヱ〳〵お母さんと言へば言ふほど何故そんなに鳴くのかと叱られて少しも言葉が通じませぬと、アノ猫奴は大層に威張つて此の猫がと言つて私を蹴飛します、已と言つて飛附うとすると其儘つかんで外に投出されました。早や追々と夜になつて雨も降つて來ます、さむくて〳〵成ませんが戸がしめてあつて内へは這入れずソツト丈伸して覗いて見ますと猫奴は悌坊の眞似をして御馳走を食べて居ます、アヽ隣りの黒が出て來た何う仕よう、アヽこわい〳〵、アヽ寒い〳〵、アヽひもじひ〳〵、己れ猫め何故此處を開けて呉れぬと言ふと、内から大柄氣に何故そう八釜しく鳴くのだ猫は外に居つても好ものだなどと言ひます。口惜しくて〳〵成ませんが又た恐い中に色々と考へますと、私が今日度々猫を叩いたりなどした時には定めて猫もコンナに怨んでおらう其の言葉が分らないからと言つて之を非道目に合わしては成らなかつたアヽ全く惡るかつたとアキラメルと、不思議やあのお婆さんが又ヒヨコリ〳〵と出て來て、私を卷付た銀の糸を取つて呉れたと思ふと目が開きました。猫は膝の上に眠つて居りました、お母さんが葡萄を持て來て起して下すつた所でした。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

賣捌書店の中にて本社の都合に依り雜誌配達差止め候向きも有之候間斯る場合に於て直ちに本社へ御注文被下候樣奉願上候

女學雜誌社

廣告會員諸君

當六日午後一時より神田一ツ橋外高等中學校內大講義室に於て當會相開き候間御家內御親族御友達御誘ひ合せ御出會相成度候也

當日講師并演題左之通

佐々木政吉君　演題　未定

宮本仲君　演題　乳母を雇ふべき場合及雇主と乳母の心得方

明治廿一年十月六日

京橋區日吉町八番地

私立大日本婦人衛生會

基督教新聞

第二百七十號

●社說　政府は何故に基督教を日本國に公許せざるや

●內外教育の新運動　今日の基督教は果して防禦的の地位にあるか　池本吉治

●教報　武州本庄之埋葬地并に他種々の教報　各教報

●雜報　[illegible]「[illegible]」氏其他數件

東京　京橋區日吉町廿番地

警醒社

出張教授を望む

壯年にして身元確實品行方正の者にて高等の教育を受け最も獨逸學に通曉する者あり今般當人の餘暇を以て毎日官員華族若くは其他の令息令孃等の御內に備へ讀書出張教授仕度候間御望の御方は何卒女學雜誌社まで御通知被下度候尤も時間は午後の內一時間乃至二時間にて報給は八圓乃至十二圓とす又二人以上御組合にて一同に教授仕りても宜敷候

交詢案內

（催促する勿れ　郵券十錢送れ　委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

十一　學婢　年齡十五六位の[illegible]學校生徒にて[illegible]水の業に從事し傍ら英學[illegible]の業に志あり[illegible]給料に望なき者を雇ひ度所あり

十二　下婢　年齡廿歲より五十歲迄の基督信者を雇入度者あり

●雇はれたき方（乙）

六　奉公　[illegible]學校卒業生にて[illegible]雇はれたき[illegible]西洋人宅にて[illegible]何地にてもよろし

七　裁縫　[illegible]內職に裁縫に雇はれたき[illegible]大家のかたき內にて[illegible]のふち縫の如きにて[illegible]

十三　教師　[illegible]の卒業生にて何處かの學校又は他の御內に雇はれたき[illegible]試驗合格を望む

十四　洋行　[illegible]十八歲位のものにて英語も可なり出來るものにて[illegible]の小間使ひとなり[illegible]行を願ひ度し

一九　召使　[illegible]他女學校等監督兼留守居樣の者に雇れたし

二〇　裁縫　[illegible]四十才にて[illegible]方の御方之內にて小間使に雇はれたし[illegible]給料は不申[illegible]

二一　教師　年齡二十七才東京府女子師範學校卒業生にして或る貴家令孃の出[illegible]者あり

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌殘本大安賣

女學雜誌は毎號に御承知の如き社説、住傳、叢話、及び諸名家の論説等あり且其時々の新報を洩なく掲げたるものなれば、右第一號より第百號に至る百冊を御覽あらば即ち一百人の賢婦烈女の傳紀、一百篇の有益なる社説、三百餘篇の面白き叢話、六十餘人の名家の婦人論ありて、其上明治十八年より明治二十一年に至る凡そ三年餘間の女の出來事を悉皆承知するとを得べし。之を合して机上に踏かるれば大ひなる姫鏡となるべし、之を遣ひ物にせらるれば凡そ五圓以上の代價何圓とも申しきれぬ實價候はん、時々の浮たる小説、もしくは一二百頁の婦人論の書物を講讀せらるゝよりは必らず利益多かるべしと確信せり、而して此の一百冊を左の低價にて賣拂ひ可申候いづれも女學雜誌初號より百號迄の内何號にて御望の號にても百冊御購求被成候諸君へは特別割引金貳圓にて御數取揃へ發送可致候

但し府外は別に郵送料一圓申受くべし尤も通運等に便利なる土地は實費を以て御届け可申候

右は殘本を取まとめ候ものに付き成べく早く御注文無之に於ては早々出はらひ可申と信じ候

東京々橋區日吉町八番地

女學雜誌社

教育時論 第百廿四號 明治二十一年九月廿五日發兌

社説●公民教育論(第一)。教育●獨逸小學校教育史略(第四回)(湯本武比古譯)●手工教授法(大澤彌治筆記)●外國語の價値ニツキテ(田所貢演述)●男女交際の一みち(氷上淑女)。理料●地理ト文明トノ關係(第一)(熊谷元一講演)●昔時ノ理科的思想(峯岸米三郎)●質問、哲學●心意ノ發達ヲ論ス(第二回)(?)內外雜纂●「日本人」ノ速言論ハ其ニ速言ナランコトヲ望ム、外數十件

本誌一部金五錢郵税一錢見本ニ限リ郵券代用不苦

發行所 東京下谷區練塀町十四番地 **開發社**

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町競々堂○同西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區[illegible]町[illegible]明堂○同京橋區木挽町[illegible]丁目萬[illegible]堂○同本鄕區春木町[illegible]丁目[illegible]堂○同本鄕[illegible]丁目文[illegible]堂○同[illegible]○京都四條通[illegible]○同三條通東洞院西へ入[illegible]○大坂備後町四丁目[illegible]○仙臺國分町十五番地[illegible]○伊勢安濃郡[illegible]○大村文助○尾張國名古屋本町[illegible]○松江新町[illegible]○長崎[illegible]○町一丁目早速社[illegible]○上州高崎田町[illegible]○土佐國高知本町二丁目[illegible]○熊本文明堂

發兌

九月。一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢 郵税。一錢 (但府內無郵税)

十册。四十八錢郵税。十錢 (同前)

半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢

一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を揭ぐるに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增加の割合と定む

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢

同 三回以上 一割引

同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHÔ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

明治二十一年十月四日印刷
明治二十一年十月六日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐